

表現文化学科

出前授業2018

表現文化学科では、「見る・聞く・触れる」実感教育を基本とし、日本文学・日本語学・表現創造の各分野で多彩な出前授業を用意しています。

日本文学

近世小説のことは

近世小説（江戸時代の小説）には、古典文学の世界に背景を持つことばが多く使われています。そうした表現をひとつひとつ丁寧に解きほぐしていくと……。いま読んでいる物語が、まったく違った姿を現すはずです。

担当：丸井 貴史

（講師 担当科目：日本文学 他）

『源氏物語』のことは
—オリジナル？それとも流行？—

『源氏物語』には美しいことばや優れた表現がたくさん出てきます。これらはすべて作者が考えたオリジナルなののでしょうか？オリジナルでないとすると、どういう人が使っていたことばなのでしょう？そのような視点で『源氏物語』のことばを見ると、物語の解釈まで変わってきます。「ことば」に焦点をあてながら、『源氏物語』の魅力にふれてみましょう。

担当：瓦井 祐子（講師 担当科目：日本文学 他）



なぜ、絵巻物は日本のアニメーションの原点といわれるのか。「みる・きく・ふれる」をキーワードに、墨と絵の具の織りなす絵巻物のかたちと表現の魅力を探ってみよう。

担当：川崎剛志（教授 担当科目：日本文学 他）

文学の課題を
読み解く

夏目漱石、太宰治、村上春樹、これらの作家の作品を、「自分を確認する作業」というテーマで読み解いてみます。自分たちに身近な問題が、これらの作品に込められていることを確認してみましょう。

担当：松尾直昭（教授 担当科目：近現代文学講義 他）

絵巻物を見る、きく、ふれる
—日本のアニメーションの原点—

日本語学

古典文法嫌いを直そう

古典文法が嫌いになる原因の一つは、今自分たちが使っている言葉と無関係に思えること、があるのではないのでしょうか。古典文法で習う言葉たちが現代語にどのように息づいているのか、それを探ることで、古典文法の見方を変えてみましょう。

担当：岩田 美穂

（講師 担当科目：日本語学他）



外国人学習者の誤用例からみる日本語の世界

日本語を学ぶ外国人学習者は、日本語母語話者がすることのない間違い（誤用）をします。その誤用を分析するとさまざまな日本語の特徴が見えてきます。

担当：中崎 崇（准教授 担当科目：日本語学 他）



身体で伝える 身体が語る



世界中の人みんながもっている身体。子どもも大人ももっていて、一生涯お付き合いしていく私の身体。身体は時に饒舌で、うまく言葉にならないときや、もどかしく通じ合えない場を一転させる力をもっています。簡単な即興ワークを楽しみながら、自らと他者の身体で交換されるエネルギーを観察し、味わってみましょう。

担当：岡本悦子（教授 担当科目：表現創造 他）

表現創造

物語の方程式

物語にはいくつかのパターンがあります。それらをどのように組み合わせるとどのような効果が生まれるかを考えていきます。例えば――

- 物語の中に物語をつくった自分をくみこむとどうなるか
 - 自分がつくった物語を自分で終わらせることができるか
 - どうすれば自分が存在しているのとは異なる時空に存在したものを理解できるか
- こういったことについて考えながら、みなさんといっしょにいろいろな物語を読んでいきます。

担当：松本潤一郎（准教授 担当科目：言語表現史 他）

「優れた物語」とはそもそもどんな特質があるのでしょうか。物語を「面白い」と言うとき、私たちは何に感動しているのでしょうか。あるいは「面白く」ないけれど、奇妙に気になる物語があるとすれば？小説の理論から物語の秘密を探ります。

担当：小林 敦子

（准教授 担当科目：表現創造 他）



物語の秘密

（次年度開講）



文化

モノの 伝えられ方



江戸時代の岡山藩主池田家が所蔵していた膨大な文化財が、明治時代以降にどうなったのかを例に、資料の伝えられ方を探ります。

担当：浅利 尚民

（准教授 担当科目：博物館資料論 他）

書籍メディアと庶民文化

—草双紙から電子書籍まで—

江戸時代の草双紙、昭和20年代の講談本など現物の資料をもとに書籍メディアの変容の様子を概観し、それら資料から読み取れる庶民文化のありかたの変化を考えます。



担当：中西裕（教授 担当科目：情報と文化 他）

—言葉と身体の表現
本物の文化に触れる—

お問い合わせ・お申込み先
就実大学・就実短期大学 入試課
nyushi@shujitsu.ac.jp
〒703-8516 岡山市中区西川原1-6-1
TEL(086)271-8118 FAX(086)271-8260